

## 受賞者からのコメント

対象：保健医療学部看護学科 3年
保健医療学部看護学第三講座 准教授 上田 泉
<p>「授業を行うにあたって工夫していること」</p> <p>在宅看護学領域は、住み慣れた地域で在宅療養支援を必要とする療養者および家族を対象に、それぞれが持つ生活・健康に対する価値観や主体性を尊重しながら、自立支援や自己決定という視点から健康の維持・増進を支援する看護活動に関する教育を行っています。在宅看護の講義においては、在宅の場と対象者の特性を理解し、在宅における看護の基礎的知識、技術、態度について学習します。具体的には、家庭訪問、日常生活支援の方法と技術、医療依存度が高い療養者と家族の特徴をふまえた支援方法と技術等を学習します。</p> <p>授業とその後の在宅の実習は連動しており、実習時に必要なスキルが身につくことを願って、できるだけ講義・演習・実習と関連させて効果的に学習できるよう授業の組み立てを考えて実施しています。</p>
<p>「学生への要望・アドバイス等」</p> <p>地域の中では誰もがその方の在宅で生活しています。学生は、年代、性別、疾患、重症度とさまざまな方と実習で出会います。看護者である前に一人の人間として、その方の価値観、思い、生活を理解しようとする姿勢、態度がとても重要であると思っています。いろいろな人がいて、いろいろな暮らしがある、ということを理解し、かつ想像できるように、知識だけではなく考える、想像する力も必要であり、アセスメント能力を高めることが重要です。そこを培うためにはどのような教育をすべきか考えながら今後も取り組んでいきたいと思っています。</p>